

千葉黎明高等学校

令和元年度ユネスコスクール活動報告

報告者：根本明彦

1. 活動内容

①黎明グリーンプロジェクト (Reimei Green Project)

本校サッカー場を天然芝にするプロジェクトを開始。3年計画の1年目のプログラムを実施。2年前から準備・研究してきた芝山町の実験圃場から芝を切り出し、総合の時間を利用して全校生徒で芝苗づくりを実施した。(4月22日)

切り出した芝を小さくちぎって砂を敷き詰めた25分割パレットに植え込んでいく。生徒一人当たり2枚の苗パレットを作るのがこの日のミッション。したがって約800名×2=1400枚の芝苗パレットが作られる計画。1枚の苗パレットで25株の苗になるので40000株の苗が作られることになる。約100m×約70mのピッチに幅50cm間隔で苗を植えてゆくと28000株が必要となる計算。苗の成長にムラが生じるので多めに作っておくことにした。



5月、6月の気温と降雨の状況に左右されたが、概ね予定とおり苗が成長し、6月22日(土)、23日(日)の学園祭において、来場した地域の皆さんや少年サッカーの子供たちの手でグラウンドに植えていく。そして学園祭終了後、各運動部の協力でグラウンド全面に苗が植えられた。



7月、8月の養生期間を経て10月5日(土)には生徒向け公開として体育祭を実施。全校生徒で作った芝生の上で開催される体育祭には感慨深いものがあった。芝の管理には「灌水」と「芝刈り」がキーを握る。本校では井戸水を利用した「自動灌水スプリンクラー」と「芝刈りロボット」を導入し、管理作業の一部自動化を図っている。

現在(1月)、夏芝(ティフトン種)は休眠期に入り、体育祭終了後にオーバーシードをした冬芝が緑を演出している。



6/24



8/25



10/26

地域のスポーツ交流の拠点として、日本サッカー協会、ジェフユナイテッド千葉、芝山町、成田空港、NPO、地域のスポーツ少年団、市民、保護者、全校生徒が関わる大きなプロジェクトの1年目となった。

②国際交流

数年前に国際理解教室として実施した「Skype」交流会で当時イスラエル大学の学生アビさん (Abigail さん) が APU (アジア太平洋大学) 進学のため来日。本校剣道部の練習に参加し交流を深めた。(5 月)

前列中央 アビさん



③元プロバスケットボール選手小宮邦夫氏スポーツ講演会

青山学院大学を経て、日立サンロッカーズやアイシンシーボーズなどのプロチームで活躍し、2004 年には日本代表に選出された小宮氏による講演会を実施。(11 月 9 日)

「Stop & Go」というテーマで目標設定と挫折からの再スタートなど、生徒に向けて勇気と希望を届けてくれた。

④「ゆうあいピック」ソフトボール大会運営ボランティア

毎年秋(9 月)に開催される「ゆうあいピック」ソフトボール大会の運営スタッフとして女子ソフトボール部員が参加。本大会は知的障害をもつ方のためのスポーツ大会のひとつ。女子ソフトボール部員にとっては毎年参加する大切な活動のひとつ。

⑤植草学園主催高校生プレゼンコンテストに参加

本企画は植草学園が主催したオリパラ開催を機会に、お互いに認め合える、多様性のある社会の形成にどのようにかわっていくか、また、現在自分(たち)が取り組んでいる地域などでの活動をどう発展させていったらよいかなどについて考えを発表するとうもの。本校から1年生3グループ(11 名)がエントリーし、それぞれの視点で発表し最優秀賞などを獲得した。(11 月)

【発表内容】

『共生社会に向けて』 パラリンピックを通して障がいのある方が生きやすい社会へ
『共生社会づくり』 パラリンピックから学ぶこと 他

2. 主な成果

ユネスコスクールとして次年度開催される2020東京オリンピック・パラリンピックを教材にした教育活動を多く取り入れた。今年度の活動は特に国際理解・人権・共生社会などについて学ぶ素晴らしい機会となったばかりか、「黎明グリーンプロジェクト」を通して、地域には少年サッカーの大会(1 月)に芝のグラウンドを提供し、熱戦が繰り広げられたことは地域スポーツの拠点としての期待感が高まり、スポーツ文化の地域振興に寄与してゆくものと思われる。また、「植草学園の高校生スピーチコンテスト」において、オリパラと共生社会について学び、発表した経験から、オリパラを迎える気持ちとその周辺への視野が確実に広がっていることを感じる。